

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 14日現在

機関番号：12611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22700723

研究課題名（和文） 服育教育に利用可能な客観的評価に基づく教育ツールの開発

研究課題名（英文） Development of the education tool based on an objective evaluation available for “FUKUIKU”

研究代表者

内藤 章江 (NAITO AKIE)

お茶の水女子大学・リーダーシップ養成教育研究センター・助教

研究者番号：70367639

研究成果の概要（和文）：

近年、衣服の着用に関する公共マナーや社会性が乱れつつあるといわれており、衣服を通して人を育てる「服育」に注目が集まっている。本研究は、中学生・高校生・大学生の「着装規範意識と着装に関わる教育経験」、「衣服と着用場面の適合性評価」、「衣服と着用場面の適合性評価時に抱く感情」を明らかにし、服育に利用可能な客観的評価に基づく教育ツールを作成した。

研究成果の概要（英文）：

In recent years, the public manner and social nature about the wearing of clothes are disturbed. In addition, attention gathers in “FUKUIKU” raising a person through clothes. A purpose of this study is to clarify “awareness of clothing norm and the education experience”, “the compatibility evaluation of clothes and the wearing scene”, and “feelings when they evaluated compatibility” in a junior high student, a high school student, and the university student. I made the education tool based on an objective evaluation available for “FUKUIKU”.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	300,000	90,000	390,000
2011年度	200,000	60,000	260,000
2012年度	200,000	60,000	260,000
総計	700,000	210,000	910,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：服育、評価、教育ツール、色彩、衣服デザイン、着装規範、適合性

## 1. 研究開始当初の背景

近年、衣服を通して社会性や国際性を身につけ、環境に対する意識を育む「服育」が話題となっており、小学生から高校生、教員、保護者向けのイベントや出張授業が各地で行われている。大阪の繊維専門商社「株式会社チクマ」では、(1) 環境を考える、(2) 安全

と健康を考える、(3) 社会性・国際性を考えるの三本柱で服育の紹介と促進活動を展開している。

そのような活動が行われる中、神奈川県の高校入試において、服装の乱れなど非公表の基準を理由に合格圏内の生徒を不合格にするという問題が起きた。この問題により、その

高校の校長、副校長、教頭は懲戒処分となったことは記憶に新しい。しかし、その高校の在校生や保護者からは、校長を処分しないよう求める意見が多数寄せられ、衣服の着装に対する考え方は様々であることが示された。

学校や職場などのややフォーマルな場面で着用する衣服には、校則などの着用方法に関する規制や暗黙の社会的規範が存在し、その規範に従わない場合、処罰や社会的信用の失墜につながることもある。つまり、神奈川県の場合については、「学校」という場面で「生徒」が着用する「衣服」として「ふさわしくない」と判断されたために社会的信用を失墜し、「不合格」という結果になったと推察できる。また、生徒の立場から考えると、着用した「衣服」が「学校」という場面に「ふさわしくない」と認識していなかったために、「不合格」になったと考えられる。今回のケースは、制服を有する高校で起きた問題であるが、制服着用義務のない、いわゆる「私服校」や大学、社会人においては、着用する衣服の適合性判断を各自で行うため、その判断をあやまると、着装者本人の勉学や職務に不当な影響を及ぼす場合もあるだろう。

これらの問題は、前掲した「服育」の中でも「(3)社会性・国際性を考える」に該当するが、「着こなし」や「着装衣服と着用場面のふさわしさ」に関する知識は、これまでに家庭科教育等でまれに扱われることがあっても、「食育」ほどの重みはなく、学校教育においてもやや軽視されている感がある。そのため、これまでにおける「着こなし方」や「着装衣服と着用場面のふさわしさ」を学習する方法としては、(1) 親から子へ伝達する、(2) 周囲の反応から学習する、(3) メディア等を参考にする、などの「伝達型」もしくは「自主学習型」で知識を得てきたといえる。

このように、「着こなし方」や「着装衣服と着用場面のふさわしさ」については、各人の主観的判断によるところが大きく、基準や指標等は構築されていない。また、「服育」についても、いまだ研究として取り扱われておらず、客観的な評価が可能な教育ツールの開発も不十分である。さらに、衣服は様々なメッセージを発信するノンバーバルコミュニケーションツールの1つとなるため、国際的にも通じる「着こなし方」及び「センス」を身につける教育が必須といえる。

そこで本研究は、「服育」に着目し、これまで筆者らが行ってきた着装規範や衣・人・場の適合性評価に関する研究を発展させ、服育教育に利用可能な客観的な評価に基づく教育ツールの開発を目指す。そのツールの1つとして、「衣服」・「着用者」・「着用場面」の適合状態が着装者と周囲の人々に及ぼす諸影響を明らかにし、「衣・人・場の適合性指標」の作成を試みることにした。

## 2. 研究の目的

本研究は3年間の計画で実施し、各年度における目標は下記に示すとおりである。

(1) 1年目(2010): 中学生・高校生・大学生の着装規範意識と着装に関わる教育経験

私たちが普段生活を送る場面には、着装に関する暗黙の規則、すなわち着装規範が存在している。着装衣服の選択には、この着装規範が大きく影響すると言われているが、中学生、高校生の着装規範意識を調査した研究は未だに少ない。また、各場面のイメージが着装衣服の選択に影響していることもこれまでの筆者らの研究によって明らかになっている。なお、着装規範意識は、これまでどのような着装に関わる教育を受けてきたか、すなわち着装に関わる教育経験が影響すると考えられる。そこで、1年目は、中学生、高校生、大学生の着装規範意識と着装に関わる教育経験を明らかにし、衣服と場面の関係について検討した。

(2) 2年目(2011): 中学生・高校生・大学生による衣服と着用場面の適合性評価

1年目の結果をもとに、どのような衣服がどのような場面にふさわしいのか、すなわち中学生、高校生、大学生が「着装衣服と着用場面のふさわしさ」をどのように捉えているのかを明らかにするために、衣服と着用場面の適合性評価を行った。また、衣服と着用場面の適合性評価には、衣服のデザインと色から形成されるイメージが関与すると推測できることから、併せて衣服のデザイン・色のイメージについても評価を行い、適合性評価の要因について分析した。

(3) 3年目(2012): 中学生・高校生・大学生が衣服と着用場面の適合性評価時に抱く感情

服育教育に本研究の結果を応用し、生徒らに着装を工夫する必要性を理解させるためにも、着用衣服と着用場面の適・不適を把握するだけでなく、着用する衣服がその場面で周囲の人にどのようなメッセージを発するのか、なぜその衣服はその場面に適する、もしくは不適であるのかを明らかにする必要がある。そこで、1年目、2年目の結果をもとに、中学生、高校生、大学生が衣服と着用場面の適合性評価を行う際に抱く感情を明らかにし、制服の着用に関わる感情について、自己評価と他者評価を実施した。これらの結果をもとに、最終目標である指標の構築に向けた客観的情報の収集・分析を試みた。

## 3. 研究の方法

(1) 中学生・高校生・大学生の着装規範意識と着装に関わる教育経験

調査対象者は中学生(1年生~3年生) 369

名、高校生（1年生～3年生）67名、大学生（1年生～4年生）150名の計586名とした。調査は2010年12月～2月に質問紙を用いた留め置き法で実施した。

調査内容は、以下のとおりである。

◆場面イメージ調査

衣服の着装について考慮が必要な6場面（①結婚式、②葬式や通夜、③学校、④入学試験や就職試験の会場、⑤百貨店やデパート、⑥自分の家）をどのような印象でとらえているのかを明らかにする。

◆着装規範調査

場面イメージ調査で使用した6場面にどのような着装に関する暗黙のルールが存在しているのかを明らかにする。

◆被服関心度調査

生徒・学生が被服にどの程度関心をもち、どのようなことに興味を持っているのかを明らかにする。

◆着装に関わる教育経験の調査

服の着こなし方や着装する場面にふさわしい衣服の選び方について、これまでの教育経験や着こなしの参考情報源を明らかにする。

(2) 中学生・高校生・大学生による衣服と着用場面の適合性評価

調査対象者は中学生（2年生）92名、高校生（1年生～3年生）150名、大学生（2年生～4年生）61名の計303名とした。調査は2011年12月～2月に質問紙を用いた留め置き法で実施した。

調査内容は、以下のとおりである。

◆衣服デザインと場面の適合性評価

1年目の調査で使用した5場面（①結婚式、②葬式や通夜、③入学試験や就職試験の会場、④百貨店やデパート、⑤自分の家）にどのような衣服デザイン（10種類、図1）が適合するかについて、評価させた。なお、昨年度用いた「学校」については、イメージの捉え方が属性により異なるため、省くことにした。



図1. 適合性評価に使用した衣服デザイン

◆衣服の色と場面の適合性評価

先述した5場面にどのような衣服の色（PCCS色票のうち、ペールトーン、ビビット

トーン、ダークトーンの2番、8番、12番、18番の有彩色12色、W、Gy5.5、Bkの無彩色3色の計15色）が適合するかについて、評価させた。

◆衣服デザインイメージ評価

適合性評価に用いた10種の衣服デザインを呈示し、イメージを評価（11形容語対）させた。

◆衣服の色のイメージ評価

適合性評価に用いた衣服の色（15色）を呈示し、イメージ（11形容語対）を評価させた。

(3) 中学生・高校生・大学生が衣服と着用場面の適合性評価時に抱く感情

調査対象者は中学生（1～3年生）717名、高校生（1～2年生）80名、大学生（2年生～4年生）161名の計958名であり、2012年9月～10月に調査を実施した。調査内容は以下のとおりである。

◆場面と衣服デザインの適合性評価時に抱く感情

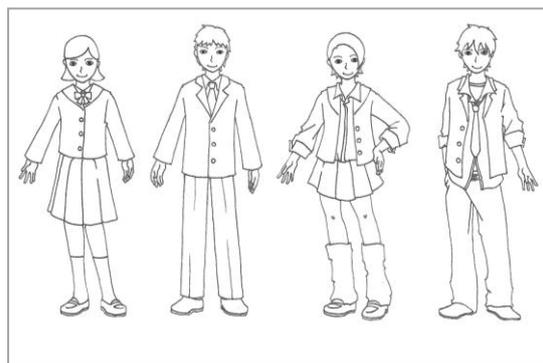
2年目の「着装衣服と着用場面の適合性評価」の結果をもとに、評価の偏りが少ない「結婚式」と「葬式や通夜」に適合もしくは不適合と評価された衣服（計4種類）を呈示し、それを見た際に抱く感情（13項目）を4段階で評価させた。

◆場面と着装衣服色の適合性評価時に抱く感情

先述した2場面において、適合もしくは不適合と評価された色（計4色）を見た際に抱く感情（13項目）を4段階で評価させた。

◆制服の着用方法により抱く感情について

学校や街中で制服を正しく着用している、もしくは正しく着用していない男女（計4種類、図2）を呈示し、それを見た際に抱く感情（13項目）を4段階で評価させた。



◆制服の着用方法について

回答者自身が「学校で制服を着用する場合」と「街中で制服を着用する場合」について、それぞれ制服の着方と着用したときの気持ち（13項目）について回答させた。なお、大学生には自身が高校生の時の状況について

回答させている。

#### 4. 研究成果

(1) 中学生・高校生・大学生の着装規範意識と着装に関わる教育経験について

場面イメージ調査の結果、中学生、高校生、大学生ともに「学校」と「百貨店やデパート」を類似したイメージで捉えていることが分かった。

着装規範の調査結果を因子分析したところ、「自己アピールと流行」、「機能性」、「社会性」の3因子が抽出された。6場面の中でも「学校」については、属性による相違が認められた。中学生は学校で着装する衣服には「機能性」や「社会性」を重視した服装がふさわしいと判断していたが、高校生ではその傾向が弱まり、大学生では「機能性」をあまり重視せず、「自己アピールと流行」を重視した衣服がふさわしいと判断していた。被服関心度については、属性によって回答の傾向にやや相違がみられた。

着装に関わる教育経験については、中学生、高校生、大学生ともに、約半数の人が「教育経験あり」と回答し、その多くが「両親」から教わったと回答していた。「服の着こなし方」について、何かを参考にしたことはあるかの問いに対しては「ある」の回答が半数以上を占め、雑誌モデルや友達の着こなしを参考にすると回答が多かった。

これらの結果から、着装規範意識は中学生、高校生、大学生それぞれに「学校」の捉え方が相違し、着装に関わる教育は家庭で行われているものの十分とはいえず、モデルや周囲の友達の着こなしを参考にして着装スキルを習得していることが推察された。

(2) 中学生・高校生・大学生による衣服と着用場面の適合性評価

衣服デザインと場面の適合性について、中学生、高校生、大学生の評価結果(平均値)を用いてコレスポネンス分析を行い、抽出された第1軸と第2軸を用いて散布図を作成した。その結果、第2象限に「結婚式」と「パーティードレス」、「フェミニンスーツ」が配置され、第3象限に「葬式や通夜」、「入学試験や就職試験の会場」と「パンツスーツ」、「タイトスカートスーツ」が配置された。第1象限と第4象限の中間あたりに「百貨店やデパート」、「自分の家」とその他の衣服(6種類、主にカジュアルウェア)が配置された。これより、第1軸は「フォーマル-カジュアル」軸、第2軸は「華やかさ-落ち着き」軸であることが分かった。衣服の色と場面の適合性についても同様の方法で分析をした結果、「結婚式」の付近にパール(淡い)トーン、「葬式や通夜」の付近に明度の低い無彩色が配置されるなど、第1軸は明度(明るい-暗い)

軸、第2軸は彩度(鮮やか-色みのない)軸であることが明らかとなった。

衣服デザイン(10種)及び衣服の色(15色)のイメージ評価結果を用いて因子分析を行ったところ、衣服デザインは「落ち着き」、「親しみやすさ」、「ソフトさ」の3因子(累積寄与率86.6%)、衣服の色は「大胆さ」、「マニッシュ・フェミニン」、「嗜好性」の3因子(累積寄与率94.5%)が抽出された。

適合性評価と衣服のデザインイメージ、色彩イメージ、場面イメージの関係を分析したところ、相関関係が認められ、衣服や場面のイメージが適合性を規定する要因となることが確認できた。

(3) 中学生・高校生・大学生が衣服と着用場面の適合性評価時に抱く感情

場面(結婚式、葬式と通夜)と衣服のデザイン(4種類)・色(4色)との適合性評価時に抱く感情を評価させた結果、場面に適合する衣服は評価のばらつきが少なく、「当たり前、真面目、きちんとしている」などの肯定的感情を生起させた。一方、場面に不適合な衣服は「恥ずかしい、かっこ悪い、不愉快」など否定的感情を生起させ、特にフォーマルイメージの強い「葬式や通夜」では、肯定・否定の感情起伏が明確に出現した。

学校・街中いずれにおいても、制服を正しく着用している人を見た場合に「安心する、当たり前、真面目、きちんとしている」などの肯定的感情が生起し、正しく着用していない人を見た場合には「個性的」の感情が強く現れ、かつ否定的感情も生起した。

学校・街中の両場面において制服を正しく着用する人は「当たり前、真面目、きちんとしている」の感情を抱いて制服を着用し、正しく着用しない人は「個性的、おしゃれ、安心する、当たり前、かっこいい」の感情を抱いて制服を着用していた。一方、学校では正しく着用し、街中では正しく着用しない人は、学校では「あたりまえ、真面目、きちんとしている」の感情を抱いて着用し、街中では「個性的、おしゃれ、かっこいい」など制服をタウンウェア化して着用していることが明らかとなった。

制服を正しく着用しない人は「おしゃれ感」を抱いて制服を着用しているが、周囲は個性的・否定的感情を抱くため、この結果を指標に取り入れ、教育・指導する必要性が示唆された。

(4) 「衣・人・場の適合性指標」の作成

これまでの結果をもとに、中学生・高校生が使用することを前提とした「衣・人・場の適合性指標」を簡便に利用できるA4サイズ両面刷りの「ワークシート」を作成した。

まず、ワークシートの表面（図 3-1）は、中高生に身近な「制服」を通じて着装に関する学習ができる内容とした。「1. 制服の着用方法について考えてみよう」では、制服を正しく着用している男女と正しく着用していない男女の計 4 名を呈示し、制服の着用方法について、よいと思う部分に○、悪いと思う部分には×をつけ、その理由を記して制服の着用方法を客観的に評価する項目を設けた。「2. あなたの制服の着方について考えてみよう」では、回答者自身が普段どのように制服を着用しているのかを見つめ直す、すなわち制服の着用に対する自己評価ができる内容とした。さらに、「3. あなたの制服の着方について他の人の意見を聞いてみよう」では、回答者自身の制服着状態について他者評価を実施し、自身の着状態に対する周囲の反応を認識させることにした。この表面は 2012 年度調査の結果をもとに作成した。

ワークシートの裏面（図 3-2）では、制服の着用方法によって、他者がどのような反応を示すかを例示し、制服の着用方法の重要性を認識させる項目を設定した。

次に、制服以外の一般的な衣服の着用について考える「4. 服（デザイン・色）と着用する場所との関係について考えよう！」では、回答者自身が着用したいと思う服（デザイン、色）を A～J の中から一つ選択させ、次にその衣服をどの場面で着用したいかを選択させると、衣服と場面の適合性が確認できるようにした。なお、衣服の選択については、衣服デザインの特徴だけでなく、イメージを併記し、衣服のデザインや色がどのようなイメージを形成するののかについても学習できるようにした。さらに、その場面にはどのような衣服がふさわしいのか、それを着用すると周囲はどう反応するのか、ふさわしくない衣服を着用すると周囲はどう反応するかを掲載した。この裏面は、3 年間の研究成果を利用して作成している。

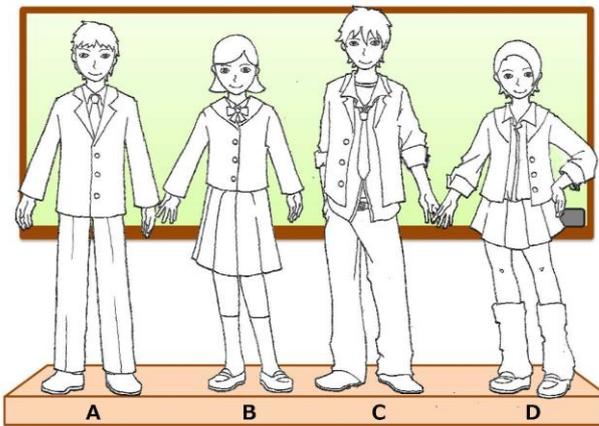
このように、ワークシートの表面では、制服を通じて着用方法の重要性を理解させる内容を掲載し、裏面は一般的な衣服を通じて、着用する衣服がどのようなイメージを形成し、どのような場面に適・不適なのか、さらには、その場でふさわしい衣服を着用するとどのように評価されるのか、総合的に学ぶことができる内容を掲載した。

本研究により作成した「衣・人・場の適合性指標」であるワークシートは、全国の中高生が利用できるよう、株式会社チクマを中心とした服育研究会や各地の家庭科研究会を通じて、中高生や教員の利用を促し、さらなる改良を行う予定である。また、本研究結果は、2011 年度～2013 年度の繊維製品消費科学学会年次大会で発表し、同学会に報文として投稿を予定している。

記入日： 年 月 日  
年 組 (氏名)

### 服の着用方法について考えよう！

1. 制服の着用方法について考えてみよう  
あなたの 4 つの制服の着用方法について、よいと思う部分に○、悪いと思う部分には×をつけて、その理由を書きましょう。



2. あなたの制服の着方について考えてみよう  
あなたは普段どのように制服を着用していますか？上の A～D の着用方法のうち、あなたの制服の着方に近いもの一つを選びましょう。また、なぜそのように着用しているかの理由を書きましょう。

あなたの制服の着方に最も近いのは？  
(一つ選んで○)  
A・B・C・D

なぜそのように制服を着用しているのか、理由を書きましょう

3. あなたの制服の着方について他の人の意見を聞いてみよう  
あなたの制服の着方を他の人に見てもらい、どのように思っているか聞いてみましょう。また、それに対するあなたの感想を書いてみましょう。

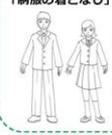
あなたの制服の着方は・・・(お友達に書いてもらいましょう)

あなたの感想 (あなた自身で書きましょう)

裏面へ

図 3-1 「衣・人・場の適合性指標」ワークシート（表面）

「制服の着こなし」について、みんなはどう思ってる？



※正しく着用している人・・・

- 清潔感があるね。
- きちんとしているね！
- 見ていて安心するよ。

制服を正しく着用すると、周りからも褒められるし気持ちいいね！



※正しく着用していない人・・・

- だらしない感じがするね。
- 恥ずかしいね。
- 近寄りたくない・・・

着ていない人は「汚いね！」「ついでに！」とあてつけて、それを見かねる友達もいるんだよ。

4. 服（デザイン・色）と着用する場所との関係について考えよう！

① 自分が着たいと思う服を次の A～J の中から一つ選び、選んだ記号に○を付けましょう。

<b>A</b> 肌を見せない 無地(柄なし) かざりなし 落ち着いた印象	<b>B</b> 肌を見せる 華やかな柄 かざりあり 華やかな印象	<b>C</b> Tシャツ ポロシャツ ニット カジュアルな印象	<b>D</b> スーツ ジャケット きちんとした印象	<b>E</b> 肌を見せない 小さい柄 スカート かわいらしい印象
<b>F</b> 肌を見せる 大きい柄 パンツ かっこいい印象	<b>G</b> 鮮やかな色の服 鮮やかな色、黄、緑、青など 大胆な印象	<b>H</b> 色味がなく暗い色の服 黒や灰、紺など ひかえめな印象	<b>I</b> 明るく爽やかな色の服 淡いピンク、黄、緑、青など 女性的な印象	<b>J</b> 暗く深い色の服 黒、紺、黄、緑、青など 男性的な印象

② 次に①で選んだ服を着てみたい場所一つを選びましょう。また、選んだ服が着用する場所に合うかどうか確認しましょう。

<b>フォーマルな服装が必要な場所</b> ・葬式や通夜 ・就職試験会場 ・入学試験会場など	<b>フォーマルで華やかな場所</b> ・結婚式 ・パーティー など	<b>カジュアルな場所①</b> ・百貨店やデパート で買い物をする	<b>カジュアルな場所②</b> ・自宅ですくつく
選んだ服はこの場所に合うかな？ ○ 合うね！ A D H × 合わないよ！ B C E F J	選んだ服はこの場所に合うかな？ ○ 合うね！ A B D E H I J × 合わないよ！ C F	選んだ服はこの場所に合うかな？ ○ 合うね！ 全ての花柄 × 合わないよ！ 柄になし	選んだ服はこの場所に合うかな？ ○ 合うね！ D 以外の花柄 × 合わないよ！ D
◎この場所にふさわしい服とは？ 年齢に合い、清潔やしきたりを守り、周囲の人と同じような服がふさわしいでしょう。 ◎周囲からどうに見られる？ 「おとなしい」「きちんとしているね」	◎この場所にふさわしい服とは？ 年齢に合い、清潔やしきたりを守り、周囲に認められたい、流行を取り入れた服がふさわしいでしょう。 ◎周囲からどうに見られる？ 「おしゃれ！」「きちんとしているね」	◎この場所にふさわしい服とは？ どんな服でも合いますが、年齢や清潔、しきたりは守りつつ、自分らしさを表現しましょう。 ◎周囲からどうに見られる？ 周囲の人から好まれる服を選びます。	◎この場所にふさわしい服とは？ 丈夫で、暑さや寒さを防ぎ、体に合った、動きやすさのある服を選びます。◎周囲からどうに見られる？ 周囲の人から好まれる服を選びます。

このように、あなたの服の着こなし方によって、周囲の人の反応はいろいろと変化します。選んだ服がどのような印象を作り出すのか、その服を着用する場所がどのような場所なのか、そして、どのような人がそれを見るのか、という「衣服・着用者・着用場所の関係」を考え、あなたらしさ（あなたの魅力）を最大限発揮できる服を着用しましょう！

図 3-2 「衣・人・場の適合性指標」  
ワークシート（裏面）

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 3 件）

- ①内藤章江、中学生・高校生・大学生が衣服と着用場面の適合性評価時に抱く感情、日本繊維製品消費科学会 2013 年年次大会 2013 年 6 月 22 日、椙山女学園大学（名古屋）
- ②内藤章江、中学生・高校生・大学生による衣服と着用場面の適合性評価、日本繊維製品消費科学会 2012 年年次大会 2012 年 6 月 23 日、文化学園大学（東京）
- ③内藤章江、中学生・高校生・大学生の着装規範意識と着装に関わる教育経験について、日本繊維製品消費科学会 2011 年年次大会 2011 年 6 月 25 日、武庫川女子大学（兵庫）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内藤 章江 (NAITO AKIE)

お茶の水女子大学・リーダーシップ養成教育研究センター・助教

研究者番号：70367639

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし